

総合評価結果報告書

施設の名称	静岡市美術館		
課名	文化振興課		
指定管理者名	静岡市文化振興財団		
指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日		
評価委員会 開催年月日	令和6年6月7日（金）		
評価委員 ※（ ）内は職名 等を記載してく ださい。	①委員長 望月 雅乃（文化振興課長） ②委員 田中 稔久（歴史文化課長） ③〃 鈴木 高美（理事兼まちは劇場推進課長） ④〃 吉田 恵理（静嘉堂文庫美術館学芸員） ⑤〃 椿原 靖弘（フェルケール博物館学芸部長）		
評価点 (各委員平均点)	93.6点	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A・ B ・ C ・ D ・ E
評価結果詳細	別紙「総合評価結果総括表」のとおり		
総合評価結果を踏 まえての施設所管 課としての意見	1 履行状況について、施設の設置目的等を十分に理解し、良好な運営が行われている。特にコロナ禍においても、代替の自主企画展を実施するなど、工夫して運営を行ったことは大いに評価できる。また、適切な施設管理のもと、災害時にも迅速に対応を行うなど、安心・安全な維持管理に努めている。 2 指定管理者の創意工夫については、各企画展において、指定管理者が培ってきた知識や信頼関係が十分に発揮され、多彩な事業展開が行われている。また、他機関や地元商店街と連携することで、幅広い世代に対し美術への関心を高める工夫が見受けられた。 3 市民（利用者）のサービスの向上については、展覧会ごとにスタッフの接遇研修を行うなど、よりよいサービスの提供に努めている。また、オンラインチケットや日時予約制の導入など、利用者の利便性向上につながる取組みも実施された。その結果、指定管理期間中の展覧会事業に対する施設利用者の満足度は全展平均で9割以上の方から「満足」「やや満足」との回答を得ることができ、館内環境や職員の対応に関する満足度につ		

	<p>いても、8割以上の方から高評価を得られた。</p> <p>4 施設固有の評価としては、学芸員の専門性の活用や、教育普及活動による機会提供を中心に評価を行った。国宝や重要文化財の公開を含む充実した展示内容が展開されたことは、学芸員の専門性やこれまで培った経験が活かされた結果である。また、自宅で実施できる新たなワークショップシリーズの開発など、多様な教育普及活動を行い、幅広い対象に美術への興味関心を高める機会を提供することに貢献している。</p> <p>5 基本的な履行状況から美術館固有の評価項目まで全体的に高評価であり、非常に良好な運営がなされたと評価できる。</p> <p>特にコロナ禍の影響もあり、総入館者数は目標に届かなかったが、いずれの展覧会も高い満足度を得ており、他館と比較しても高い水準であると委員からも好評価であった。</p> <p>今後も引き続き、学芸員の専門性や経験をもとに、新しい事業にも取り組みながら、市の特色ある美術文化の創造と発信を行い、市民の美術文化を振興する拠点としての機能を果たすべく、よりよい事業運営を期待したい。</p>
--	---

総合評価結果総括表

施設の名 称 [静岡市美術館] 課名 [文化振興課]
 指定管理者名 [静岡市文化振興財団]

	A 評価 委員	B 評価 委員	C 評価 委員	D 評価 委員	E 評価 委員	平均 点
1 履行状況の確認	【配点50点】					
(ア) 静岡市美術館の設置目的及び管理に関する基本的な考え方を理解し、基本理念、基本目標に沿って施設を運営している。	15	13	14	15	14	14.2
(イ) 当初、計画書等に示された事業が予定どおり、円滑に実施された。	9	9	9	10	9	9.2
(ウ) 職員の利用者に対する応対が親切丁寧であり、利用者に安心感を与えるとともに、利用者の信頼感を得られるよう努めている。	5	5	5	5	5	5
(エ) 地震・停電等の災害・事故発生時の危機管理体制を整備しており、発生時には迅速かつ的確な対応を行った。	4	5	5	4	5	4.6
(オ) 適正な能力を持った職員が適切な人数配置された。	4	5	5	5	5	4.8
(カ) 収支状況において、概ね予算のとおりにより執行されており良好であった。	5	4	5	5	5	4.8
(キ) 施設の保守・管理・点検・清掃等が適切に実施された。	5	4	5	5	5	4.8
小 計	47	45	48	49	48	47.4
2 指定管理者の創意工夫	【配点15点】					
(ア) 指定管理者の持つ経験・専門性を活かし、多彩な事業を企画・実施した。	5	5	4	5	5	4.8
(イ) 指定管理者の持つネットワーク・ノウハウを活かし、他機関との共催・連携等に積極的に取り組んだ。	5	5	5	4	5	4.8
(ウ) 静岡市美術館の利用や主催事業について、市民に対し積極的な広報活動を実施した。	4	5	4	5	4	4.4
小 計	14	15	13	14	14	14

3 市民（利用者）のサービスの向上		【配点15点】				
（ア）利用者の満足度調査において高い評価を受けた。	5	5	5	5	5	5
（イ）職員の対応力向上に努めるとともに、利用者の苦情等には速やかに対応し、利用者の意見を取り入れた。	5	5	5	5	4	4.8
（ウ）より多くの市民の利便性を考慮し、来館者の増に努めた。	5	5	3	5	4	4.4
小 計	15	15	13	15	13	14.2
4 施設固有の評価項目		【配点20点】				
（ア）学芸員の専門性を活かして、市民に質が高く多彩なジャンルの展覧会を提供した。	5	5	4	5	4	4.6
（イ）教育普及活動を通じ、幅広い年齢層に対して美術に親しむ機会の提供に努めた。	4	3	5	5	5	4.4
（ウ）静岡音楽館、静岡科学館と連携して事業を実施し、中心市街地の多彩な文化交流と賑わいの創出に貢献した。	4	5	5	4	5	4.6
（エ）市の文化施策を踏まえて、指定管理者の持つ専門知識等を活用し、市が実施する文化事業に協力した。	5	4	3	5	5	4.4
小 計	18	17	17	19	19	18
合 計	94	92	91	97	94	93.6

※ 評価委員名は記載しない

※ 平均点は、少数点以下第2位を四捨五入する。

各評価委員の所見のまとめ（※各評価委員の所見をそのまま記載してください。）

【A評価委員】

- ・コロナ禍においても工夫しながら展覧会を実施。精神的インフラを意識して、役割を果たしている。
- ・重文・国宝等、文化庁から信頼を得られる専門性を持った学芸員を配置していることを評価した。
- ・民間との共催の展覧会の開催ができるネットワークやノウハウをもっていることを評価した。
- ・すべてのお客様に対し、バリアフリーの意識を持って対応している。
- ・教委との連携ができるとよいか。

【B評価委員】

- ・接遇への取組は高く評価できる。
- ・能力の高い職員をそろえていることがわかる。
- ・「東海道之美」の中止に伴う対応はとても良い。
- ・これまでの活動がネットワーク、ノウハウに着実に繋がっている。
- ・十分な数のアンケートを実施しており、結果も極めて良い。
そのための努力がしっかりとされている。
- ・常に改善の意識を持っている。
- ・おうちで！しずびオープンアトリエなど、新しい取組がとり入れられている。
- ・教育的側面がやや足りない。
- ・市の文化事業への協力は実施例が少ない。
- ・美術館として十分すぎる実績となっている。
- ・今後は教育的側面を充実させてほしい。

【C評価委員】

- ・コロナの影響を受けたものの、工夫がなされ良い取り組みがされている。
- ・目標値（入館者数）は届かないが、内容は充実したものであると言える。
- ・コロナ禍において小椋神社との連携など、国庫補助を活用するなど評価できる。
- ・文化観光推進法に基づく取り組みに期待するが、市美が観光に結びついているかどうか不明。
- ・歴史博物館との連携が見えてこない。
- ・歴博と市美の周遊性の報告が欲しかった。文化振興財団の指定管理施設としてもっと連携できるのではないかな。

【D評価委員】

- ・コロナ禍を経て、十分な入館者数の復元がされていると思います。
- ・静岡市美らしい展示や教育普及をされていると感じています。
一層、内容を深化されてください。
- ・市民の満足度90%以上は他館ではあり得ないと思います。
- ・駅前の人が集う場所として求められる期待を十分に果たしていると考えられました。

【E評価委員】

- ・静岡市美術館は、所蔵品を持たず、巡回企画の受け入れや、自主企画では全出品作を他機関からの作品借用によって展覧会を開催しなければならない、という大きなハンディがありながら、コロナ禍を乗り切り、他の美術館・博物館と比べて、むしろ好成績（収支においても、観覧者数においても）を残せたのは、これまで培ってきた、「実績」と「信頼」の賜であると思う。
- ・展覧会事業を実現させるために、地元メディアから出資共催を得る、各種補助金を獲得する、というような活動実績が、平常時以上に、コロナ禍での運営においてリスクを分散させることにつながったものと思われる。
- ・自主企画はもとより、他館との共同企画により、各学芸員が専門的知見を磨いて展示を構成し、カタログを執筆編集する、さらに生涯学習センターの講座等を多数おこなうことで市民の様々な層に還元する、というサイクルが上手く回っている。前回、前々回の指定管理期間の講座数、カタログ執筆数に比して、それぞれ回数は大きく増えており、学芸員が成長し、専門性が高まったこと、財団内連携が円滑になったといえる。
- ・受付、監視業務は派遣会社に業務委託しているが、派遣社員を毎展覧会ごとに教育している点、時には接遇研修を行っている点など、総務課職員の対応は高く評価できる。来館者アンケートの高満足度は、その成果であるといえる。一方、ネットを通じた広報、販促などは、地方美術館としてはよくできているが、都市型美術館としては、利便性についてまだまだ工夫の余地はある。
- ・所蔵品を持たない分、力を入れてきた独自の教育普及プログラムが、静岡市美術館の大きな強みになっている。幅広い客層に美術を普及するという姿勢が、展覧会事業にも、関連事業（講演会）などにも活かされている。文化庁や東京国立博物館などの所蔵館からも信頼を得て、数々の国指定文化財を展示公開できたことは、現状、公開承認施設ではなくとも、それに相当する学芸員が揃っている、設備も備わっていることを意味するものと考えられる。実際、その知見をもって、市内、財団内の文化財を適切に保管管理し、アドバイスもできている。静岡市美術館の学芸員や館の存在は、今後の静岡の文化に、大きく貢献していくことが期待できる。

評価委員会としての意見

基本的な履行状況から美術館固有の評価項目まで全体的に高評価であり、非常に良好な運営がなされたと評価できる。

今後も引き続き、学芸員の専門性や経験をもとに、新しい事業にも取り組みながら、市の特色ある美術文化の創造と発信を行い、市民の美術文化を振興する拠点としての機能を果たすべく、よりよい事業運営を期待したい。